初級中国語の文法項目について

― 福大の『漢語課本』を例として ―

趙　　葵　　欣

要旨：

本文は日本の大学における共通教育科目としての、中国語の初級段階で教える内容について、文法項目の角度から考察したものである。福岡大学で現在使用中の統一初級教科書『漢語課本』（金星堂、2015）を例とし、「中国語初級段階学習指導ガイドライン」（日本中国語教育学会・学力基準プロジェクト委員会、2007）の基準を参照して、限定的な習得時間内で、教えるべき基礎的な文法項目を整理した。また初級段階の文法項目の配置や教える順序も検討している。

『漢語課本』（福岡大学中国語教科書研究チーム、金星堂）は福岡大学の共通教育中国語課程で使用している教科書である。長年試用の段階であったが修正を加え続け、2015年度から全校共通中国語初級段階の統一教科書として使っている。そこで本教科書が何を教えているのか、どうのように教えているのか、初級段階に相応しいかどうか等を、経験に基づく感想ではなく、科学的な検証をする必要があると思われる。本文はこの考え方に沿って、『漢語課本』の文法項目について考察していきたい。問題点を導き出し、今後の修正に良い提案ができることを望んでいる。

また本論は、執筆者勤務校の使用教科書という限定的な例を扱っているが、日本の大学の初級中国語で何を教えるべきかという、普遍的な問題で参考になれば幸いである。

一、初級中国語の概念と基準

初級中国語の教科書であるので、まずは「初級中国語」の概念を考えていきたい。

日本の大学における中国語教育は、中国語を専門として学ぶ学部生に教える中国語と、共通教育の第２外国語としての中国語の２種類がある。『漢語課本』は、この後者の中国語を教えるために使われている。またこの学習環境は、学習者が目標言語の話されていない環境で学んでいるので、Teaching Chinese as Foreign Language（CFL）でもある。

大学における共通教育としての中国語は、初級から始めるのがほとんどである。しかし大学によって、履修に必要な期間（１年か２年か）や週のコマ数、必修であるかどうかなどがかなり異なる。なので一口に初級と言っても、各大学の状況によって意味にかなりの幅がある。本文では、日本中国語教育学会・学力基準プロジェクト委員会が2007年に公表した「中国語初級段階学習指導ガイドライン」（以下「ガイドライン」と略称）に沿って、初級中国語という概念を以下のように定義する。

> 初級段階とは、大学における第二外国語で毎週２回（１回は90分）、２年間を通じて学んだ場合の、合計240時間（中国と同じ50分授業として計算すれば約200時間[1]）の課程を考えている。

日本における大学の中国語教育に関する基準は、所見の限りこの「ガイドライン」しかないため、この基準を参照し、『漢語課本』の文法点内容を検討していきたい。

福岡大学はカリキュラムの設置により、共通教育中国語は「週２回、１年間履修する」となっている。これで学習時間を計算すると90時間となり、「ガイドライン」で示した時間の１／３は超えているが、半分にも満たない。このような状況下で、福岡大学の初級中国語ではどの文法項目を教えるべきかを考えねばならない。まずは現在使用中の教科書『漢語課本』と、「ガイドライン」の文法項目を比較してみる。

[1] 中国の大学の普通の時間割りを参考し、一日４コマ（50分／コマ）、週５日の授業で計算すると、この200時間はちょうど３ヶ月の学習時間である。

二、文法項目の比較

以下の２列の左側は「ガイドライン」の基準であり、右側は『漢語課本』の内容である。全体的に「シンタックス（syntax)」、「文の機能分類」、「品詞」の３つに分けて整理する。

2.1　シンタックス

「ガイドライン」	『漢語課本』
単　　文	
1．名詞述語文 名詞：**他北京人**。 数詞：**今天星期五**。 否定文：**不是**	名詞述語文 数詞が述語になる文：第８課 第12課 名詞が述語になる文：なし
2．形容詞述語文 **他很忙**。	形容詞述語文 第10課
3．動詞述語文	
①是：判断文	是：判断文　第６課
②存現文：存在をあらわす文： **桌子上**〔有／**放着**〕**一本字典**。**他在屋子里**。 出現・消滅をあらわす文： **下雨了**！ **今天刮大风**。 **前面来了一辆车**。 **村里死了一个人**。 主要な動詞： 有：存在をあらわす場合。 **桌子上有一本书**。 在：**你的字典在这里**。	存現文： 「在」と「有」のみ 第９、11課
③二重目的語：**教　给** **我教他英语**。 **我给他一本字典**。	二重目的語： **告诉　16課**
④使役文（兼語文）：**让　叫　请** **他让我回家**。 **我叫他帮忙**。 **我请他来**。	使役文（兼語文）： **请**：**16課** **叫**、**让**：なし
⑤連動文 a．連続する動作、情況： **他看完电影去买东西**。 b．動詞（句）の一方が動作の目的：**他去图书馆借书**。 c．前置の動詞（句）が動作の方式： **他坐飞机去北京**。 **他站着说话**。 d．前置の動詞が“有”(1)： **有工夫玩儿**。**没有话说**。 e．前置の動詞が“有”(2)： **有一个学生来找你**。 **今天没有人来**。	c．前置の動詞（句）が動作の方式： 第12課 **每天骑自行车来学校**。 b．動詞（句）の一方が動作の目的： 第12課の練習中 **去图书馆看书**。 **来教室上课**。
⑥処置文：介詞“把”を用いる文。 **我把这本书看完了**。 注：構文の詳しい解説がない。	処置文：第16課 S＋把＋O＋動詞＋その他の成分 ↓ ①V（三項動詞 trivalent verb）＋O ②V了 ③V＋動量補語

⑦受動文（受身文）： a．介詞“被”などを用いる文： 我被他打了一顿。 b．介詞“被”などを用いない文： 老虎打死了。 処置文と同じく、詳しい構文の解説がない。	取り上げていない
⑧比較文： 介詞“比”を用いる文： 今天比昨天热一点儿。 A 比 B＋adj.＋差 （一点儿 得多／多了 具体的数字） 否定文：今天没有昨天热。	A 比 B＋adj.＋具体的な数字 否定文：A没有B＋adj. 第10課
⑨動詞文のアスペクト（aspect） 了〔完成〕〔変化〕 着〔持続〕 过〔経験〕 在〔進行〕 是……的	了〔完成〕14課 〔変化〕12課 （现在几点了？） 过〔経験〕14課 在〔進行〕16課 是……的　14課 着〔持続〕取り上げていない
単文の成分	
1．補語 ①結果補語： V完／好／住／清楚 ②状態補語／程度補語： 学得很好。／说得大家都笑了 「得」がない程度補語： 好极了。／忙死了。 ③方向補語： a．単純方向補語： V来／去／上／下／进／出／过／回／起 b．複合方向補語： （上／下／进／出／过／回）＋（来／去） 起来 c．方向補語と動詞に対する賓語の位置： 走进教室 进教室来 走进教室来 拿出一本书来 拿出来一本书 d．派生義用法： 看出来 想出来 ④可能補語 ⑤数量補語：動作量、時間量、数量（比較の結果を示す）。 看一次 看一眼 看一看 看一会儿 高一米 大一点儿	②状態補語： V＋得＋adj.　15課 ⑤数量補語 動作量：（VV動詞の重ね形）　15課 V一下　16課：「把」構文のところにあるが解説はない。 V一遍　16課 次：14課「一次」、15課「这次」の形として触れている。 時間量： 「～分钟、小时」11課 「～年、个月、个星期、天」 13課 数量補語 A 比 Badj.＋具体的な数字　10課 結果補語 方向補語 可能補語 取り上げていない
2．修飾語：的　地 ①「的　地」の使用ルール、及び省略するルール 的：名詞・人称代名詞・形容詞・動詞が修飾語になる場合： 我妈妈　我家 木头（的）桌子　白（的）纸	1　的： 名詞・人称代名詞が修飾語になる場合：７課 動詞が名詞の修飾語になる場合：12課 人称代名詞が修飾語になる場合に省略するルールを解説するが、名詞が修飾語になる場合に省略する

我的字典 漂亮的衣服 他写的字 ②形容詞が連用修飾語になる場合： **快来　慢慢(地)走** **很高兴地说　科学地研究**	ルールは解説していない。 b．地 取り上げていない
複　　文	
接続詞： **不但…而且** **虽然…但是** **可是　不过** **要是　如果** **因为…所以** **只有** **只要** **那么**	逆接続を表すもののみ **不过　但是　可是** 第16課

２．２　文の機能分類

「ガイドライン」	『漢語課本』
1．疑問文 ①「ma」疑問文 ②反復疑問文 ③選択疑問文 ④省略疑問文 名詞（句)、代名詞の後に“**呢**”を置く。 ⑤疑問詞疑問文 **谁**　什么　**哪**　**哪**个 **哪**里 **哪**儿　怎么 怎**样**　怎么**样**　多(么)　**为**什么 几　多少	①「ma」疑問文　第６課 ②反復疑問文　　第９課 ③選択疑問文：A**还**是B？ 14課の練習部分 ④省略疑問文：　第９課 ⑤疑問詞疑問文： **谁 什么**　　第６課 **哪** 几　　第７課 **哪**个　　第８課 **哪**里 **哪**儿　第11課 多少　　第10課 怎么(how)　第12課 怎么**样**：第14課 多+adj.：多大 多高 多**远**： ８課「多大」、10課「多高」、11課文法部分の例文に「多**远**」がある **为**什么：ない
2．反語文（……？） ①unmarked反語文（語気だけで）： **谁知道**？ **你还不去**？ ②marked反語文：不是…**吗**？ **这不是你的书吗**？	取り上げていない
3．命令文 **请坐**！ **别客气**！ **你看**！ **快点儿**！	取り上げていないが、教室用語集に「請」の例文がある。
4．感嘆文 **真冷**！ **多好啊**！ 呼びかけ：**老师**！	取り上げていない 第６課に中国人の呼び方の紹介がある。「小・老＋苗字」、「苗字＋先生・小姐」等

２．３　品詞

「ガイドライン」	『漢語課本』
１．量詞： ①名量詞： 种 只 双 对 点 位 口 家　匹 头 条 棵 支(枝) 节 块 把　片 场 张 本 封 座 辆 瓶 杯 碗 件 套 句 ②単位： 公里 里 米 公斤　斤 元 角 毛 分 刻 号 岁 ③動量詞： 次 回 遍 趟 下	１　名量詞：９課 口　个　张　把 杯　瓶　本　枝 台　件　条　双　只 ②単位：10課 米　公分 ③動量詞：14－16課 次　遍　下 「次・遍」の区別を解説していない
２．方位詞： ①単純方位詞： 里边 外边 上边 下边 左边 右边 里 外 上 下 左 右 ②名詞＋方位詞： 屋子里 桌子上	①単純方位詞：11課 ②名詞＋方位詞：９課
３．代詞： ①指示代名詞 ②人称代名詞 ③疑問代詞（疑問詞）： 谁 什么 哪 哪个 哪里 哪儿　怎么 怎样 怎么样 多么 为什么　几 多少 ④疑問詞の非疑問用法： 什么都有。 没有什么。 要什么就给什么。 好像在哪儿见过他。	①指示代名詞：８課 ②人称代名詞：６課 ③疑問代詞（疑問詞）： 疑問文の箇所を参照 ④疑問詞の非疑問用法： 取り上げていない
４．数詞： ①係数詞： 零 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 两　百 千 万 亿 ②概数詞： 多 一点儿 一些 一会儿 一下	①係数詞： 零 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 两　百 千 万 亿　発音編 ②概数詞： 左右　10課 一下　(一)些　16課 一点儿　15課
５．介詞： 把　被　让　叫　比 从　往　朝　向　离 在 给　对　跟　和 为　为了 除了 当　连	把　16課 比　10課 从…到　离　11課 在　13課 给　16課 和　７課　跟　15課

	扱っていない介詞： 被　**让**　**叫** 往　朝　向 **对** **为**　**为**了 除了 当　**连**
6. 副詞 ①時間副詞： **正 在 正在 才 刚 一 立刻 马上 已经 早就** **一直 先 从来 快 忽然 常常 老 经常 渐渐 有时候** ②程度副詞： **很 太 最 非常 特别 更 越　有点儿** **真 比较 好 多 不错**(还) **可以** ③範囲副詞： **都 总 一起 一块儿 一共 就 只 只好　互相** ④関連副詞（重複、連続）： **还 还是 又 再 也 一边** ⑤語気副詞： **大概 也许 恐怕 一定 必须 到底　可** **当然 原来** ⑥否定副詞： **没　没　有 不用 别 不要**	①時間副詞： **先**　16課 **有时候**　15課 ②程度副詞： 很　10**課**　太　15**課** 不太　11**課**　非常　12課 有点儿　16課　可…了　14課 **还**可以　15課　不**错**　15課 ③範囲副詞： 都　6**課** 一起　8**課** ④関連副詞（重複、連続）： **还**　9**課**　也　6**課** ⑤語気副詞：なし ⑥否定副詞： 不　6課 没 没有　9課
7．接続詞（複文以外）： **和 还是 或者**	**还是**　14課
8．助動詞： **会　能　想　可以　应该　得　要　肯　敢** **他会说英语。** **你能不能去？** **我想学汉语。** **你应该买一本。**	想　7課 会　15課 要　①したい　7課 2　しなければならない　15課 能　得　可以　**应该**等：なし
9．助詞 ①アスペクト助詞： 了〔完成〕 着〔持続〕 在〔進行〕 **过**〔経験〕 ②文末助詞： **啊 吧 吗 呢 了 的**	①アスペクト助詞： 了〔完成〕　14課 〔変化〕　12課 在〔進行〕　16課 **过**〔経験〕　14課 ②文末助詞： 啊　8**課** 吧　16**課** **吗**　6**課** **呢**　6**課**
10. 感動詞： **哎呀 喂**	取り上げていない
11. 擬声語： 哈哈　丁当　汪汪	取り上げていない

三、検討とまとめ

3.1 以上「ガイドライン」を参照し、『漢語課本』の文法点を項目別に初級文法の基準と比較した。全体的に見ると、『漢語課本』にある文法項目は基準より、主に以下の部分で少ないことが見て取れる。

①補語：「ガイドライン」にある結果、状態、方向、可能、数量補語のうち、『漢語課本』は状態補語と数量補語しか取り上げていない。

②特殊な構文：「**把**」構文は扱っているが、受け身文の「**被**」構文は取り上げていない。使役文はあるが、典型的な「**让**、**叫**」ではなく、「**请**」だけを取り上げている。

③アスペクト：進行形の「**在**VO」は出でいるが、状態持続を表す「V**着**」はない。

④助動詞：「ガイドライン」には「願望」・「可能」・「能力」・「条件」・「許可」・「必要」などを表す助動詞が揃っているが、『漢語課本』には「願望」と「可能」の「会」しかない。

⑤接続詞：助動詞と同じく、「ガイドライン」には文と文を接続する、「因果」・「転折」・「条件」・「仮定」・「累加」等を表す接続詞が並んでいるが、『漢語課本』には「転折」を表す「**过**／**但是**／**可是**」しか取り上げていない。

前述のように福岡大学の共通中国語の履修時間は、「ガイドライン」の示す定義の時間の半分もないので、これら扱われていない文法点が全部取り上げられる余裕はなく、必要もないと思われる。特に「接続詞」は全て教える余裕はないとはっきり分かっている。だが補語の一部や助動詞など、基本的なものはもう少し扱うほうが良いだろう。例えば日本中国語検定協会の准４級にも「**应该**」が出題されている。准４級は大学での半年の課程を修了した程度を基準と設定しているので、福大で１年間使用する中国語教科書にそのような単語がないのは、やはり不足しているのだと判断せざるを得ない。

それゆえ、「ガイドライン」に記してある様々な文法項目の中で何を取り上げ、何を90時間の履修時間内で教えるのかの選択が、これからの課題となる。参考として、中国語検定試験の範囲や『国際漢語教学通用課程大綱・修訂版』（**孔子学院総部／国家漢办編制, 北京語言大学出版社**, 2014）も視野に入れるべきだと思われる。

3.2 文法項目の内容以外に、『漢語課本』にある文法点の配置や出る順序についても少し考察したい。

3.2.1文法項目の配置

『漢語課本』の文法点の配置は調整する必要があると感じられる。現在の『漢語課本』は、初級の主要な文法点である「様態補語」、「動量補語」、「動詞のアスペクト」（了、過、是…的、進行形の「在」）、「助動詞」、「使役文」、「把」構文など、およそ10個の文法項目が最後の３課に集中している。全体16課のうちの最後の３課、学習時間の90時間のうちのおよそ23（22.5）時間[2]に重要かつ複雑な文法項目を配置しているのは、バランスが良いとは言えない。実際に授業をして大変であるという声をよく聞く。

3.2.2文法項目の出る順序

教えるべき文法項目をどの順序に教えるのかも大切な問題である。具体的にいえば、使用頻度の順序、難易度の順序、さらに習得順序も加えて考えれば一番理想的だと思われる。使用頻度の順序はよく使うもの、表現が一つしかないものを先に教えることである。難易度の順序は文法点の構造面の難易度と、認知上の難易度を含む。文法の構造が簡単なものを先に、複雑なものは後で教える。認知上の難易度は語学面ではなく、人間に普遍的な認知上の発展順序、例えば具体→抽象、空間→時間へと発展するということである。習得順序（acquisition order）は様々な異なった文法項目をマスターする順序である。第二言語習得の先行研究（Krashen 1977, Krashen & Terrell 1983, Ellis 1994）によって、通常の学習条件下で学ぶ場合、文法項目の習得順序には一定の安定性があることが確認されており、第二言語習得論における主要な知見の１つとされている。なので、もし目標言語の文法項目の習得順序が解明されたら、その習得順序に沿って教えるのが最も効果的だと考えられる。しかし中国語の文法項目の習得順序に関する研究は充分だとは言えず、特に日本人学習者に関する研究はまだ少ない。なので現在の教科書の編集では、主に使用頻度の順序と、難易度の順序を重視しているようである。

『漢語課本』の文法点が出る順序について、例として「把」構文を取り上げて検討したい。「把」構文は一つの文法点であるが、実は内部構造に幾つかの差異が見られ、少なくとも以下のように分類することが出来る：

a．S＋把＋O＋V＋在／到＋場所
b．S＋把＋O＋V＋**给**＋人等
c．S＋把＋O＋V＋補語
　（結果・方向・時量・動量VV／V一下など）
d．S＋把＋O＋V＋了／着
e．S＋把＋O＋V（三項動詞 trivalent verb）

この中で、事前に補語を教えていないとｃパターンは教えることができず、「了・着・二重他動詞」が出ていないとｄ、ｅパターンも無理である。前置詞「在・到・

[2] 14～16課は１課を２週半、つまり５回で終わると計算しているが、実際には最後の16課を飛ばすクラスや、４回で１課を終えるクラスが多い。そうなれば学習時間はもっと少なくなる。

给」はａ、ｂパターンを教える前提条件でもある。

また「把」構文に関する研究により、「把」構文が最もよく使われるのは物の移動を表す文であることが分かっている。張旺熹（2001）はコーパスを利用して「把」構文の使用状況を考察し、2160の「把」構文のうち1121が物の空間移動の表現であるという結果を得た。つまり上記のａとｂパターンが、「把」構文で最もよく使う形である。またこの「空間移動」は他の表現方法がなく、必ず「把」構文を使わねばならない。他の３つのパターンは普通のSVO文に言い直すことができる。ただ文脈の流れの中で使う必要が生じてくるが、初級レベルではこの段階には達していない。

意味の上で「把」構文のａ、ｂパターンは先に教えるべきだと確認したが、シンタックス構造面の難易度はどうたろうか。

前述のとおり、前置詞「**在・到・给**」の習得は「**把**」構文ａ、ｂパターンを教える前提条件である。中国語学習者の前置詞（介詞）の習得情況については、趙葵欣（2000）の先行研究がある。その研究によると、初級段階の学習者がいち早く習得した前置詞は「**在、从（到）、给、跟、对、用、为了、按照、关于**」であり、それらの前置詞が以後の学習段階でも安定している。また動詞の前にある連用修飾語（状**语**）から、動詞の後にある補語の位置へ発展する習得順序が見られるが、その位置の変化を学習者はさほど難しいとは考えない。

ゆえに、「**把**」構文の「Ｓ＋**把**＋Ｏ＋Ｖ＋**在**／**到**＋**場所**」と「Ｓ＋**把**＋Ｏ＋Ｖ＋**给**＋**人等**」ａ、ｂパターンが、構造面から見ても、難易度が低い方だと分かる。それで「**把**」構文を教える時に、まずaとbパターンを教える方が良いと判断できる。しかし、『漢語課本』にある「**把**」構文は、上記のｃ、ｄ、ｅパターンに相当する「Ｓ＋**把**＋Ｏ＋動詞＋Ｖ（二重他動詞）／Ｖ了／動量補語」であり、もう少し後ろに回すべきだと思われる。

語学の学習は直線ではなく、螺旋状に進めるべきである。同じ文法項目でも、まずは簡単なものや基礎的なものから学び、徐々に複雑な表現を増やすことで、最終的に１つの文法項目の習得を完了できる。この「**把**」構文を例にすれば、まずａとｂパターンを教えて、次にｃパターン、最後にはｄとｅパターンを学ぶのが良いと思われる。

３.３　終わりに文法項目と教科書の話題、テーマの設定に関連することを述べたい。教えるべき文法項目を決めたなら、教科書で設定したコミュニケーションの場面や話題にどのように持ち込むかを考えなければならない。文法点はコミュニケーションの場面を通して学習者に教えるものなので。特に初級段階の教科書では学習時間が少ない場合、このような話題を優先すべきだと思われる。この問題についてはまた別論に譲る。

以上、本文は「ガイドライン」を基準とし、福岡大学の共通教育中国語統一教科書『漢語課本』の文法項目を考察した。福大初級中国語の履修時間が「ガイドライン」で定義する初級中国語の習得時間より少ない一方、補語や助動詞、接続詞、受け身文などの文法項目が不足していることを指摘している。また具体的な文法内容以外に、文法項目の配置や教える順序にも触れている。以上の問題点を踏まえて、今後の改善案が検討されることを希望する。

参考文献

杉村博文 2007. 基于汉外对比的教学语法,《汉语教学学刊》第３辑, 北京大学出版社。

赵金铭 1994. 教外国人汉语语法的一些原则问题,《语言教学与研究》第２期。

赵葵欣 2000. 留学生学习和使用汉语介词的调查,《世界汉语教学》第２期。

张旺熹 1991“把”字结构的语义及其语用分析,《语言研究》第１期。

—— 2001“把”字句的位移图式,《语言教学与研究》第３期。

Ellis Rod 1994. *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford：Oxford University Press.

Krashen Stephen 1977. Some issues relating to the Monitor Model. In H.D.Brown, C. Yorio & R.Crymes (Eds.), *On TESOL'77: Teaching and learning English as a second language*： *Trends in research and practice* (pp.144-158). Washington： TESOL.

—— 1981. *Second language acquisition and second language learning*. Oxford：Pergamon.

Krashen, S. D. & *Terrell, T. D. 1983. The natural approach*：*Language acquisition in the classroom*. London：Prentice Hall Europe.